

IV. 大規模畑作

大規模畑作 ①ポテトハーベスター

125

ポテトハーベスターから馬鈴薯をフレコンバッグに移し替える作業を行うために畝脇の石礫をどかしていたとき、ポテトハーベスターが急に動き出してタイヤに右足を轆かれた。
(平成23年9月 9時半頃、女性・49歳)

事故の概況

ポテトハーベスター（積載量500kg）のタンクからフレコンバッグに馬鈴薯を移す作業を行うため、ポテトハーベスターから降り、作業の邪魔になる畝脇の石礫をどかしていたところ、ポテトハーベスターをけん引するトラクター（75PS）の運転者が被害者の存在に気付かずトラクターを前進させ、右足の甲をポテトハーベスターのタイヤで轆いた。

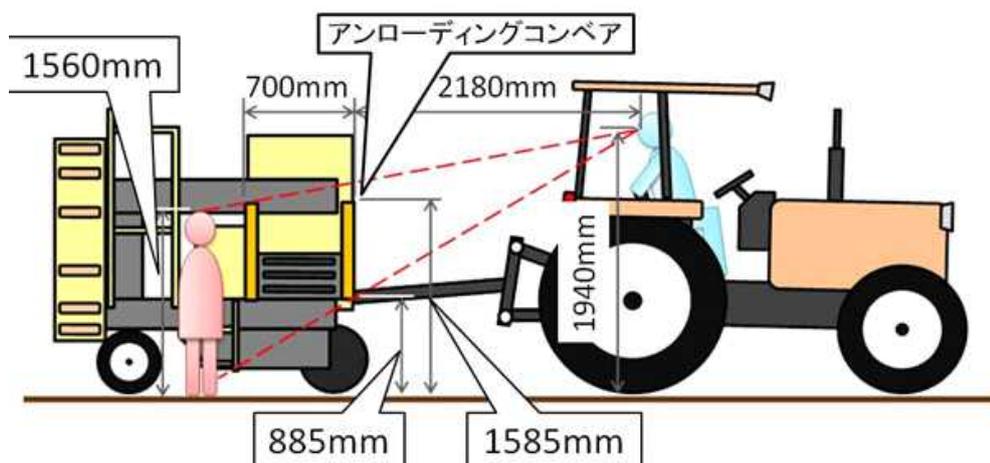
妹が病院に連れて行き、受診、右足甲の打撲と診察された。2週間の通院でほぼ完治したが、今でも寒くなると痛みが走ることがある。医師からは、もし地面が硬かったら、粉碎骨折していただろうと言われた。



事故原因と対策

事故以前からホイッスルを使って運転者に合図するよう心がけていたが、事故当時は、ポテトハーベスターの近くで作業を始める合図を出しておらず、相手から自分が見える位置で意志を伝えることもしていなかった。また、運転手も動かす際にホーンを鳴して合図することもなかった。特に、アンローディングコンベア（馬鈴薯を荷下ろしするためのコンベア）を降ろした状態だったため、運転席からはその陰に隠れていて、見えなかった。とにかく大型機械には「死角」が多く存在し、必ずコミュニケーションルールを事前に徹底して決めておくことが重要である。

なお、安全長靴を履いていなかった。安全長靴は重いし、近くの店では女性用（小サイズ）を販売していないから、とのことであった。地面が柔らかかったので比較的軽い怪我で済んだ。



播種機に乗り、種子ホッパーの種子を手で均等に平らに均して、底部にあるアジテータに手が巻き込まれた。(平成24年4月 午後4時半頃、女性・52歳)

事故の概況

春蒔き小麦の播種作業の終了間際、種子ホッパー内の残量が少なくなり、欠株の恐れがあったため、導入2年目の12条の播種機に乗りホッパーの種子の山を均して、アジテータに軍手が引っかかり、そのまま巻き込まれた。

大声を出して、トラクターの操縦をしていた夫に機械を止めてもらい、ゆっくり逆転して手を抜いた。すぐに夫の運転で役場まで行き、そこで待ち合わせた救急車にて病院に搬送。負傷部を消毒する手術の後、しばらくおいてから骨をつなぎ合わせる手術を受けた。リハビリを続けてだいぶ手が動くようになったが、現在でも小指が途中までしか曲げることができず、幅広いものを持ったり、回す動作がやりにくく後遺症が残っている。

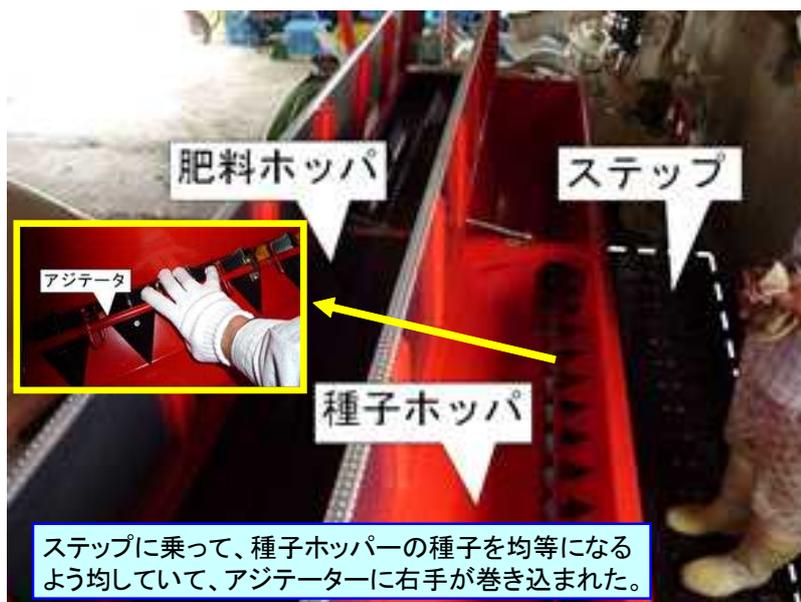
右手第4・5中手骨開放骨折、右橈骨茎状突起骨折、入院1カ月、通院11カ月。

事故原因と対策

種子ホッパーへの補給のため、ホッパー後方にステップが設けられているが、作業中には「乗るな！」の標識が貼付されておらず、さらに、アジテータが容易に手が届く距離にある場合は、駆動しているときは種子ホッパーの蓋が開けられない構造、あるいは蓋を開けるとアジテータが止まる構造に設計すべきであるが、そのような対策がとられていない。

ただ、アジテータの回転速度は遅く、気を付けてやれば大丈夫だろうと思い、回転部に直接手を入れてしまった。しかも、大きめの軍手をはめていた。とにかく、作業中の播種機に乗ってしまい、後から考えれば、無茶な行動であった

事故後は、作業中に播種機には誰も乗せないよう徹底し、種子の残量もトラクタ運転者自らが機械を止めた後に確認するよう改め、種子の種類別に適切な播種密度設定を把握し、設定ダイヤルの近くにそれぞれの設定値を記入した。



サツマイモ掘取り機に補助者として乗車、運転者が収穫したサツマイモのバックを地上に降ろし、バックをかける部分に戻したとき、補助者がその部分についている土を落としていて、戻った機械の間に挟まれ、右中指骨折。

(平成23年10月 午後3時頃、女性・30歳)

事故の概況

雇用した中国人女性労働者2人をサツマイモ掘取り機に乗せて、朝8時から焼酎用サツマイモの掘取りをしていた。補助者の仕事は、掘り取ったサツマイモがベルトコンベアに上がってくる芋のツルを外し、機械の後ろに取り付けられているバックに入れる仕事である。バックに芋が一杯になると約500kg、これをバックを縛っているベルトコンベア後部に突きだし、地面に降ろし、紐を外す。その後、そのベルトコンベアが戻る時、コンベアと機械本体との間に土が残る。

午後3時頃、受傷者は運転席の反対側にいて、土を取っていた。機械が戻る時、土を取っていた手の指を挟んだ。本人は、「大丈夫」と言ったが、表情が青く、雇用主がすぐに医院に連れて行き、レントゲンを撮ってもらったところ、右中指基節骨が骨折しており、近くの総合病院を紹介された。そこで、手術、入院2日間。現在、中指は十分に反り返らないが、日常活動に特別の支障はない。

事故原因と対策

中国人女性は3カ月間日本語の研修を受けているが、事故発生当時、まだ十分に理解できる状態ではなかった。雇用された家には3カ月前より作業をしていたが、当該の機械に乗る機会は何もなく、日常の管理の作業をしていた。

当年のサツマイモの掘り取りは約1週間前から始め、本人も何回か乗車し、機械の動きが分からなかった訳ではないが、機械に対する警戒心等が薄かった。また、操縦者の位置からは、補助者の手元が見えず、死角となっている。様々な掘取り機があるが、補助者の動きが、機械操縦者に十分見えない構造のものも多く、今後の機械の開発時の課題とも考えられた。



オペレーター(運転手)Aは、補助員B、Cを乗せてサツマイモを掘る。イモは①で掘り取り、②のベルトコンベアを通り、③にある袋に入る。補助員はイモのツル等を外す作業を行う。③の袋が一杯になると、後部を突き出し、袋を地面に降ろす。その後、突き出した後部を戻す時、ベルトコンベアと戻った後部の間に土があり、それをCの補助員が取ろうとして手を挟まれた。AからはCの手元が死角。